Windows での図入り LaTeX 文章の作り方

川勝則孝

1999 年 2 月 2 日

1 概略

図 1 のような流れで作成する。

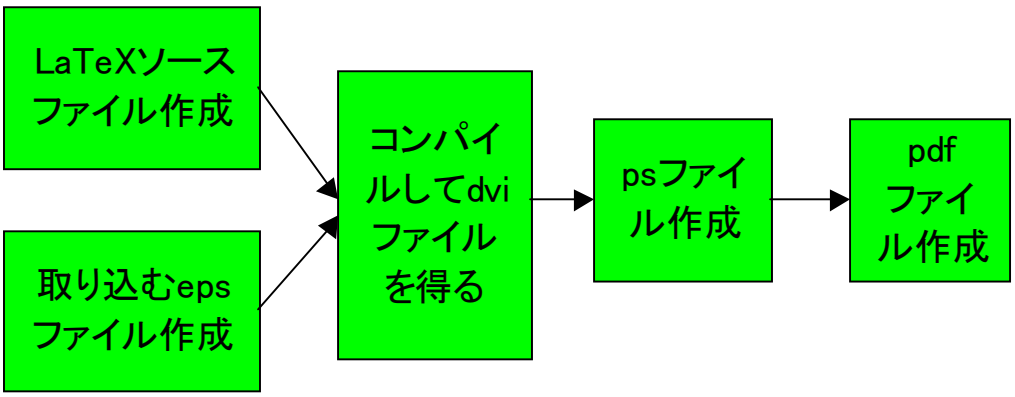

図 1: 作業の流れ

それぞれの場面での注意点を次節以降で説明しよう。

2 LaTeX ソースを作成

- \usepackage{epsfig} を document の行の次に挿入する。
- 絵を入れたいところで、“\epsf{file=untarakantara.eps, height=5cm}” などとする。

3 取り込む eps ファイルを作成

Windows で Draw 系のお絵描きができるツールを使って、eps ファイルを得る。
たとえば Word でつくる方法は以下の通りである。

- まず、Word 文書として絵の入ったものを作る。
- 次にページスタイルメニューにおいて上下、右左のマージンを 0 にして、さらに、ページの大きさを作成した図の大きさと同じにする。

(ページスタイルを変更するのは結構面倒なので、以前に図をつくったときに作成した Word 文書があるならばそれをコピーして使うのが楽である。)

- ps プリンタードライバを選択する。Acrobat Distiller はちょっと出力が変になるようである。プリンタードライバの設定のうち、出力する ps ファイルのタイプを「EPS」モードにしておく。
- printer の出力先を file にして印刷! 拡張子は eps 以外の方が良いかもしれない。このファイルをさらに変換する必要があるからである。ファイル指定ダイアログの設定をそのまま使えば拡張子が prn になるのでそうしておこう。
- できあがったファイルを GSView などで表示領域を Clip する。GSView を開いて File メニューの PS→EPS メニューでこれを行う。変換先は実際 LaTeX ソースで指定した名前である、**.eps という名前にしておく。

4 コンパイルして dvi ファイルを得る

platex でコンパイルすると dvi ファイルが得られる。

dviout で図入りの表示をさせることができる。印刷したいときは dviout の印刷を使うのが早い。

ただしカラーの対応がされていないようなのでカラーを得るときは ps にしなければならない。また、pdf を得る場合にも ps ファイルをつくらなければ行かないので次のステップが必要である。

5 ps ファイルを得る

dvips プログラムによって dvi から ps を得ることができる。(ptex のプログラムフォルダーの中に GUI 込のプログラムが入っている。)

pdf ファイルはさらに次のステップが必要だ。

6 pdf ファイルを得る

Acrobat Disdtiller をたちあげて、先ほどつくった ps ファイルを開く。

印刷をすると default ではダイアログをつくって情報入力を求めてくる。このダイアログはたまに最初から隠れてしまうことがあるので注意である。終わったと思ったらまだそのダイアログを開いていた状態だった、ということがままあるので意識しておいた方が良いだろう。

PDF Distiller の代わりに PDF Writer を使うこともできるが、あまりきれいなものはできないようである。(解像度の低いものができる) また GS でも変換は可能であるようだ。